



国 関 整 地 河 第 5 号
平 成 2 4 年 1 1 月 2 2 日

長 野 県 知 事
阿 部 守 一 様

国土交通省
関東地方整備局長
森 北 佳 昭



一級河川天竜川水系伊那圏域河川整備計画の認可について（通知）

平成24年8月3日付け24河第160号により申請のありました標記について、認可します。

天竜川水系 伊那圏域
河川整備計画

平成24年11月
長野県

目 次

第 1 章 対象圏域と河川の現状	1
第 1 節 対象圏域の概要	1
第 2 節 圏域内河川の現状と課題	5
第 2 章 河川整備計画の目標に関する事項	11
第 1 節 計画対象区間	11
第 2 節 計画対象期間	11
第 3 節 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標	11
第 4 節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標	15
第 5 節 河川環境の整備と保全に関する目標	16
第 3 章 河川整備の実施に関する事項	17
第 1 節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに該当河川工事の施行により設置 される河川管理施設の機能の概要	17
第 2 節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	20
第 4 章 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項	21
第 1 節 河川情報の提供に関する事項	21
第 2 節 地域や関係機関との連携等に関する事項	21

●附 図

第1章 対象圏域と河川の現状

第1節 対象圏域の概要

長野県においては、天竜川水系の流域が県土のほぼ南半分を占めている。河川整備計画の策定に際しては、地形や地域特性からこの流域を3圏域（諏訪圏域・伊那圏域・飯田圏域）に区分するものとする。このうち、伊那圏域は県内流域の中程にあたり、伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村と岡谷市、塩尻市の一部を含む4市3町3村で構成され、その中央部の低平地に天竜川が南流している。



図-1 伊那圏域位置図

(地形・地質)

天竜川流域は我が国の中央部に南北に羽毛状に位置し、上流部は日本の屋根と呼ばれる赤石山脈（南アルプス）や木曾山脈（中央アルプス）に属し、恵那山から南に続く三河高原を経て遠州平野へと連なっている。

伊那圏域を含む伊那谷は木曾山脈と赤石山脈に挟まれた南北約 80km、幅 10km 以下の狭長な盆地で、北は辰野町付近から始まり、南は天竜峡付近で下條山脈にさえぎられて終わる。北部は標高 700m、南部は 350m である。南北に細長いこの盆地は、木曾山脈や赤石山脈が断層運動したために、相対的にできた地溝と考えられている。隆起した山地部からは大量の土砂が運び込まれて堆積し、断層運動や堆積作用の繰り返しにより盆地内には河岸段丘や扇状地が形成されている。

伊那盆地の中央を流れる天竜川は 3～6 段の河岸段丘を形成しているが、氾濫原の規模は小さい。西麓は直接木曾山脈と接するため、山麓には扇状地がよく発達して、複合扇状地が形成されている。東麓は三峰川を除くと段丘はあまり発達していない。

天竜川流域一帯には、古生代から新生代にかけての各時代の堆積層や各種の火成岩、これから変成した変成岩類が広く分布している。また、上流域には中央構造線、糸魚川 - 静岡構造線が走っていることに加えて、険しい地形のため山が崩れやすく、流れ出る土砂の量の膨大さもわが国有数の河川となっている。

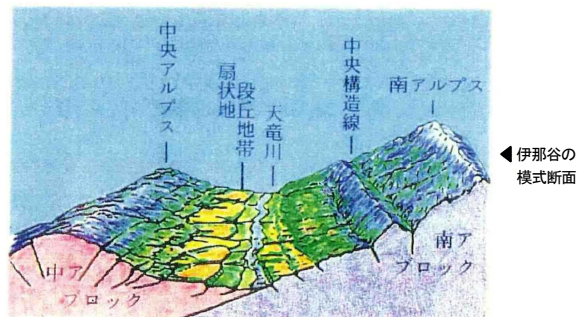


図-2 圏域の地質の概要

(気候)

当圏域は、内陸性の気候を示しており年間降水量は 1300～1900mm 程度である。年間の降水量は少ないが梅雨期及び台風期には降雨が集中することが多い。

また、伊那市における年平均気温は 11 度程度と冷涼な気候であるとともに、寒暖の差が激しい気候となっている。

(土地利用)

圏域の土地利用は山林及び田や畑等の耕作地の割合が多くなっている。宅地は圏域の中核都市である伊那市に集中している。

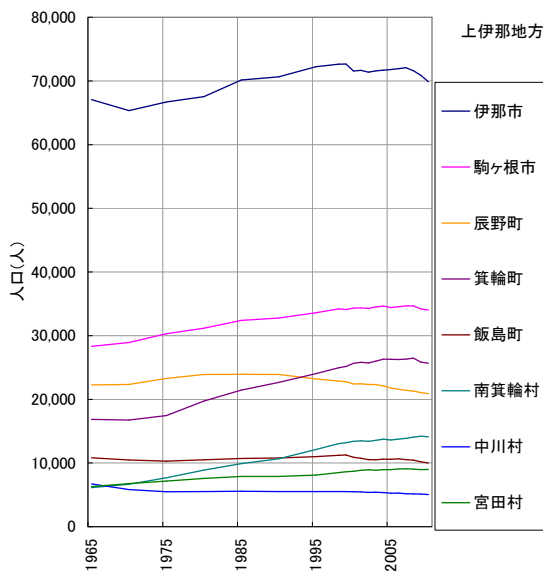
また、流域内の宅地、耕作地等の資産の多くは、天竜川の低平地に集約されている。天竜川沿いの隣接する低平地の多くは、水田や畑、果樹園等の耕作地が中心ではあるが、辰野町、箕輪町、伊那市では天竜川沿いにまで市街地が広がっている状況である。

流域周辺の山々は、南アルプス国立公園、中央アルプス県立自然公園、三峰川水系県立自然公園、天竜小渋水系県立自然公園に指定されており自然環境は極めて良好である。

(人口・産業)

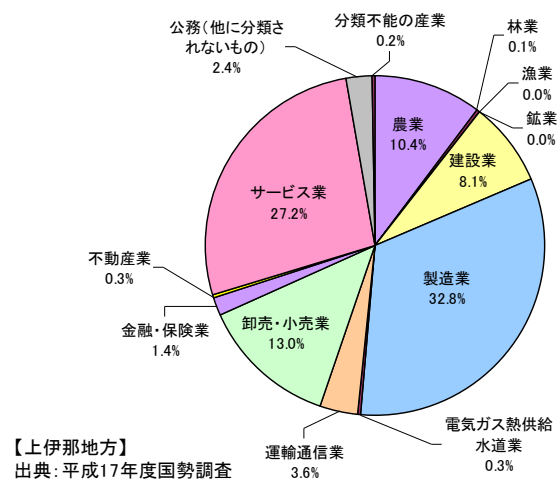
圏域の総人口は190,424人(平成22年10月現在)である。総人口のうち伊那市が約70,000人と圏域の約1/3以上を占めている。人口は伊那市を中心として平成13年頃までは増加傾向が見受けられるが、現在では圏域全体で減少傾向が確認できる。

主な産業は、電気・精密・機械等の製造業であり、製造業の占める割合は約33%と長野県平均の22%を大きく上回っている。また、農業は恵まれた広大な農地を利用した伊那米や野菜・花卉・畜産の総合産地としての地位を築いている。



出典：長野県ホームページ

図-3 圏域内の市町村別人口の推移



【上伊那地方】
出典：平成17年度国勢調査

図-4 圏域内の産業構成

(風土・文化等)

伊那圏域を含む伊那谷は、東は南アルプス、西は中央アルプスに挟まれ、南北は山地や湖により囲まれた地域である。江戸時代にはこのような伊那谷を統治するために領地が細分化され複雑な領域支配が展開された。この支配構造は、治水政策にも重大な影響を与え、為政者が異なればその治水政策も異なるように天竜川水系で一貫した治水政策がとられることは無かったようである。

一方、一定の領地から少しでも多くの年貢を取るために新田の開発が奨励され、開発は氾濫原にまでおよび、川普請が盛んに行われている。川普請により大きな氾濫原が開発された例が多く残っている。

また、伊那圏域内には、文化財保護法に基づく指定文化財(平成20年3月現在：国指定18、県指定53、市町村指定347)が数多く指定されており、多くの観光客も訪れている。



図-5 江戸時代の伊那谷の支配

(自然環境)

圏域内の伊那市の植物相をみると北方型の要素を一部にもちながら、一面に日本型を示しているともいえる。山地のモミの仲間からみても低山の方からモミ・ウラジロモミ・シラビソ・オオシラビソになっている。ウラジロモミとシラビソは西日本から表日本、関東まで分布しているが、オオシラビソは本州の中部から北部の亜高山帯に分布しているもので北方系のものといえる。また、1,000m以下の低山にはモミ、1,000mから上にウラジロモミ、1,500mを越すとシラビソが生えている。

圏域内の動物は、寒暖の差が激しい内陸性気候であること、地形的にも植生的にも複雑であるとともに、東西を木曾山脈（中央アルプス）、赤石山脈（南アルプス）に囲まれた自然豊かな環境であるため、多種多様な動物が生息している。

- ・ほ乳類については、サル、シカ、カモシカ、イノシシ、タヌキ、ツキノワグマ、モグラ、ムササビ、イタチ、野ウサギ、キツネ、リス等の生息が確認されている。（伊那市史・自然編より）
- ・鳥類については、伊那地方で約 100 種の分布が確認されている。これは日本全体で見られる種類の約 40%にあたり、県内でも豊富な種構成をもった地方であるといえる。
- ・西山に源を発する大泉川・小沢川・小黒川・大田切川・藤沢川（伊那市）などの各支流は、天竜川合流点付近では流れも比較的ゆるやかである。上流にさかのぼるにしたがって急流が岩をかみ、イワナ・アマゴなどの絶好のすみかとなるよい淵をつくっている。
- ・棚沢川・新山川・大沢川（伊那市）など天竜川の左支川の河川では、川幅が狭く、勾配も右支川に比べて緩やかである。瀬や淵が多く、イワナ・アマゴなどの良い生息場所になっている。
- ・伊那地方は、昆虫類の宝庫として多数の種類と個体数を持ち、さらに貴重な昆虫類も多い地域である。

第2節 圏域内河川の現状と課題

第1項 治水に関する現状と課題

本圏域は、天竜川流域の上流域に位置し、大小合わせて103河川から構成されており、日本でも有数の山々である中央アルプス、南アルプス等から流れ出ているため、ほとんどの河川が河床勾配の急な急流河川である。また、天竜川本川との支川合流点付近の平坦部において市街地が集積しているため、この地域において、一旦、洪水が発生すると、浸水被害が大きくなることも圏域河川の特徴である。

圏域の河川改修は、昭和の初頭より天竜川、三峰川等を中心に行われてきた。主な河川改修は表－1のとおりである。昭和39年の河川法の改正により天竜川水系は昭和40年4月に一級河川となり、これ以降圏域の河川は一定計画に基づく改修が進められている。また、横川川^{よこかわがわ}においては、治水ダム建設事業により横川ダム（昭和61年完成）が建設されたほか、沢川^{さわがわ}においても、総合開発事業により、箕輪ダム^{みののむ}（平成4年完成）が建設されている。さらに三峰川においても、建設省（現国土交通省）により、美和ダム^{みわ}が建設（昭和34年完成）されている。

しかし、河川改修の多くが局部改良工事や災害復旧工事であり、全川の改修にまで至っていないのが実状であり、昭和40、44、57、58、平成3、11年と立て続けに梅雨前線や台風による集中豪雨に襲われ、圏域内に甚大な被害が発生している。近年では、平成18年7月の梅雨前線豪雨により多大な被害を受け、より高い治水安全度の確保が望まれている。

また、近年の人口増加により治水安全度の向上が必要である。一方、高度土地利用等による流域からの流出増加等により治水安全度の低下が懸念されている。

以下に、圏域内河川のうち、沿川の人口、資産の集積状況や現況の流下能力、過去の浸水被害等を考慮し、優先的に整備を行う河川の現状を記載する。

【天竜川】

天竜川は、諏訪湖からの唯一の流出河川であり、釜口水門^{かまぐち}から流出し、圏域内の中央を北から南へと流下している河川である。また、天竜川では、昭和の初頭より順次改修が行われており、釜口水門からの放流量の更なる増加を可能とする河道掘削や河岸の浸食対策を段階的に進めている。

今後も下流の国管理区間の改修に合わせ、治水安全度を向上させる必要がある。

【小沢川】

小沢川は、圏域の中核都市である伊那市の市街地を流下する河川である。市街地を流下するために、河川の拡幅等による流下能力の確保が難しく、下流部の市街地区間の改修が遅れている。この未改修区間が狭窄となり、流下能力が不足していることによりしばしば洪水氾濫の危険性に見まわれている。近年の更なる市街化により、その危険性は顕著となってきた。特に荒井区^{あらい}、川北区^{かわきた}等は河道狭窄部の上流部に位置し、洪水の被害発生の危険性が高くなっている。河道改修により治水安全度を向上させることが課題である。

【駒沢川】

駒沢川は、上伊那郡辰野町と塩尻市との境にある霧訪山きりとうやまに源を発し、山間部を南流した後、辰野町おの小野地区を流れ小野川に合流する河川である。小野川合流付近では、昭和36年6月、昭和38年7月及び昭和46年8月の梅雨前線豪雨等の溢水被害を受けて、局部的に護岸整備を実施している。しかしながら近年増加している集中豪雨により、上中流域の天然河岸浸食による河道閉塞の恐れがあり、洪水の被害発生の危険性が高くなっている。このことから、河川改修により流下能力の向上や河岸の浸食対策を図り、治水安全度を向上させる必要がある。

表-1 圏域内の主な河川改修

NO.	河川名	施工地名	着工年度	改修延長 (m)
1	小沢川	伊那市	S53	1,618
2	大沢川	伊那市	S50	1,530
3	鼠川	駒ヶ根市	S38	2,326
4	大泉川	南箕輪村	S39	680
5	小田切川	宮田村	S43	3,120
6	保谷沢川	中川村	S44	1,436
7	大沢川	宮田村	S50	2,180
8	太田切川	宮田村駒ヶ根	S28	255
9	横川川	辰野町上辰野	S28	220
10	太田切川	駒ヶ根市大河原	S30	
11	大沢川	伊那市田原	S32	
12	大泉川	南箕輪村南殿	S34	
13	棚沢川	伊那市野底	S38	
14	天竜川	辰野町羽場	S40	
15	上穂沢川	駒ヶ根市南割	S42	667
16	藤沢川	伊那市高遠町御堂垣外	S43	508
17	天竜川	箕輪町伊那路橋下	S44	670
18	古田切川	駒ヶ根市下平	S45	1,860
19	大沢川	宮田村中越	S46	1,760
20	如来寺川	駒ヶ根市羽場	S46	1,260
21	天竜川	辰野町下田	S47	
22	小横川	辰野町小横	S47	500
23	横川川	辰野町上辰野	S48	750
24	大清水川	伊那市大萱	S48	840
25	唐沢川	飯島町鳥居原	S49	
26	子生沢川	飯島町七久保	S50	1,487.2
27	宮沢川	駒ヶ根市南下平	S51	720
28	大沢川	伊那市福地	S52	1,900
29	駒沢川	辰野町小野	S52	760
30	上穂沢川	駒ヶ根市南割	S52	1,000
31	藤沢川	伊那市高遠町栗田	S52	870
32	藤巻川	飯島町南割	S53	1,209
33	大泉川	南箕輪村田畑	S53	720
34	十王堂沢川	飯島町本郷	S54	790
35	郷沢川	飯島町高尾	S55	1,175
36	帯無川	箕輪町松島	S56	700
37	大清水川	南箕輪村神子柴	S56	250
38	田沢川	駒ヶ根市下平	S60	416
39	藤沢川	伊那市高遠町長藤	S62	1,205
40	小野川	辰野町小野駅	S59	712
41	横川川	辰野町宮本	S57	645
42	大沢川	伊那市東春近	H2	820
43	瀬沢川	伊那市手良	H1	610
45	横川ダム	辰野町	S53	H=41m, V=105千m ³
46	箕輪ダム	箕輪町	S55	H=72m, V=307千m ³

第2項 利水に関する現状

伊那圏域の流水は、農業用水や上水道用水等として利用されているが、主には農業用として取水が行われている。

沢川においては、箕輪ダムの貯留により伊那市、駒ヶ根市、箕輪町、南箕輪村及び宮田村の上水道用水（日最大50,000m³）に利用されている。また、横川川においては、横川ダムの貯留により、かんがい用水に利用されている。

本圏域の河川において、近年は、顕著な渇水被害は発生していないものの、諏訪湖の釜口水門において西天竜用水等の下流利水の安定化のため設定されている責任放流8.4m³/sにしてんりゅうに対し、諏訪湖へ流入する河川の流況悪化のため、至近10年（平成13年から平成22年）のうち平成19年から平成22年を除く6年で放流量の調整を行っている。

第3項 河川環境に関する現状と課題

水質については、天竜川は三峰川より上流がB類型、下流部がA類型に、横川川はAA類型、三峰川はA類型に指定されており、環境基準点での水質は概ね環境基準を満足している。しかし釜口水門から天白橋の区間では、水質が向上してきているものの、環境基準を達成できない年もある。

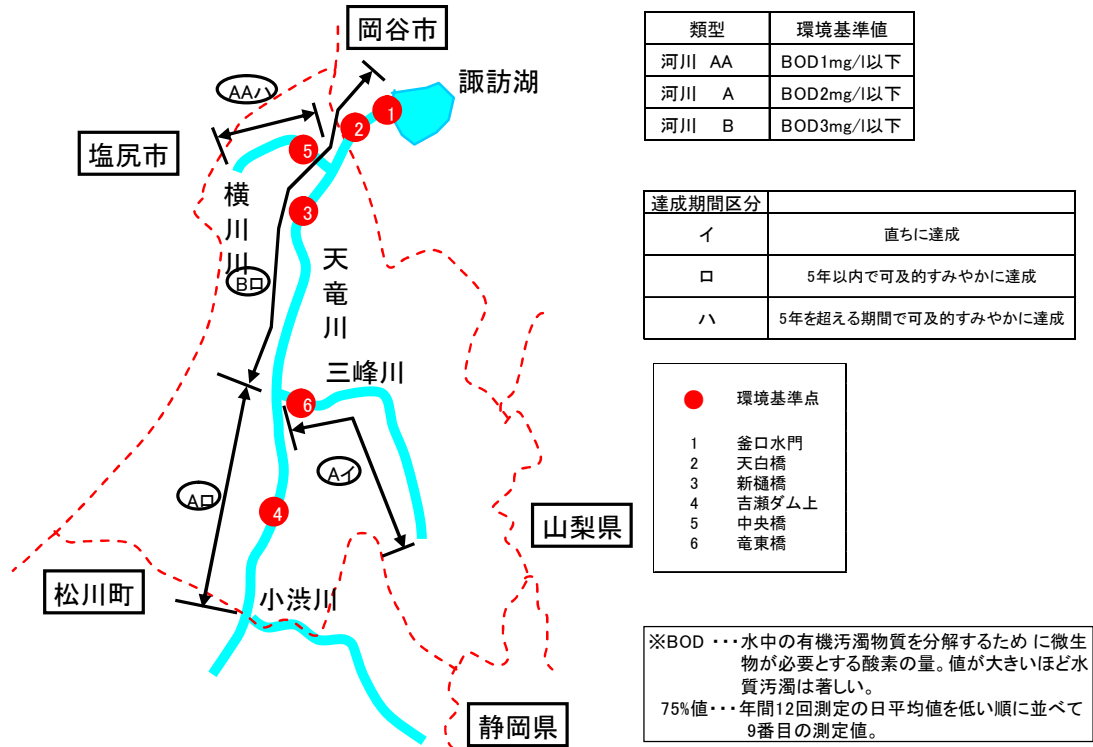


図-6 圏域の水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定状況

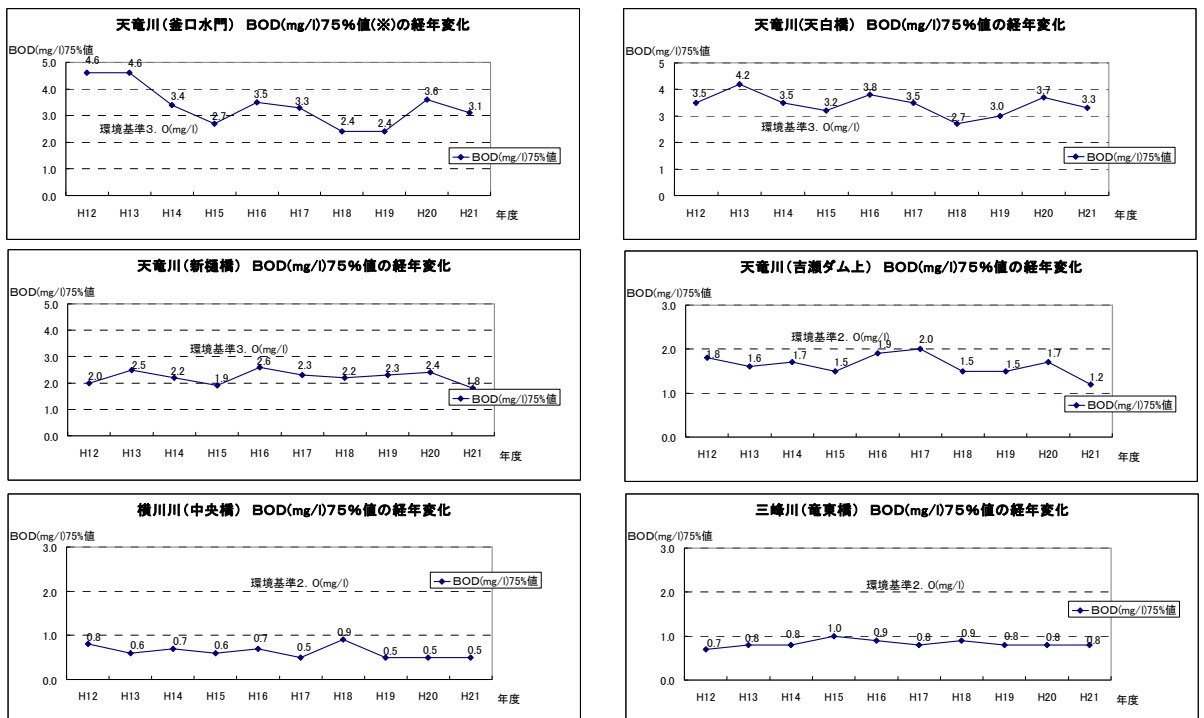


図-7 河川の水質の推移 出典：「平成21年度水質測定結果」長野県

第4項 河川の維持、管理の現状と課題

河川の豊かな自然環境を守る河川愛護団体の活動は、圏域の各地で行われており、顕著な活動としては、辰野のほたる祭りを中心とした河川の保全や、伊那市の川シンポジウムがあげられ、地域ぐるみによる河川の草刈やゴミ拾いが行われている。また天竜川、棚沢川及び七面川しちめんがわにおいてはアダプトプログラムが開始されており、平成21年度には、天竜川では3団体、棚沢川及び七面川においては、それぞれ1団体が参加して自主的な愛護活動を行っている。しかし、良好な河川環境を保全していくためには、より一層地域の状況にきめ細かく対応していくことが肝要であり、河川管理者と地域住民とがより十分なコミュニケーションを図り、今まで以上に協力関係を築き、住民が積極的に河川管理に参加することが必要となる。

圏域内の河川では、天竜川沿いのほたる童謡公園、与田切川沿いの与田切公園等の親水公園が多く利用されている。また、川沿いにはキャンプ場も多く、夏になると魚釣りや川遊び等、川を利用する人も多い状況である。この状況を踏まえ、河川利用の観点から親水性を考慮した計画を進めていく必要があると考えられる。

圏域内では、各水防管理団体において水防計画等が作成され、定期的な点検・パトロールを実施するような体制整備が図られている。また、水位がはん濫注意水位に達し、なお上昇の恐れがあり、水防活動の必要があるとき、またその他水防上必要があると認められるときは、消防団及び消防機関を出動させることとしている。

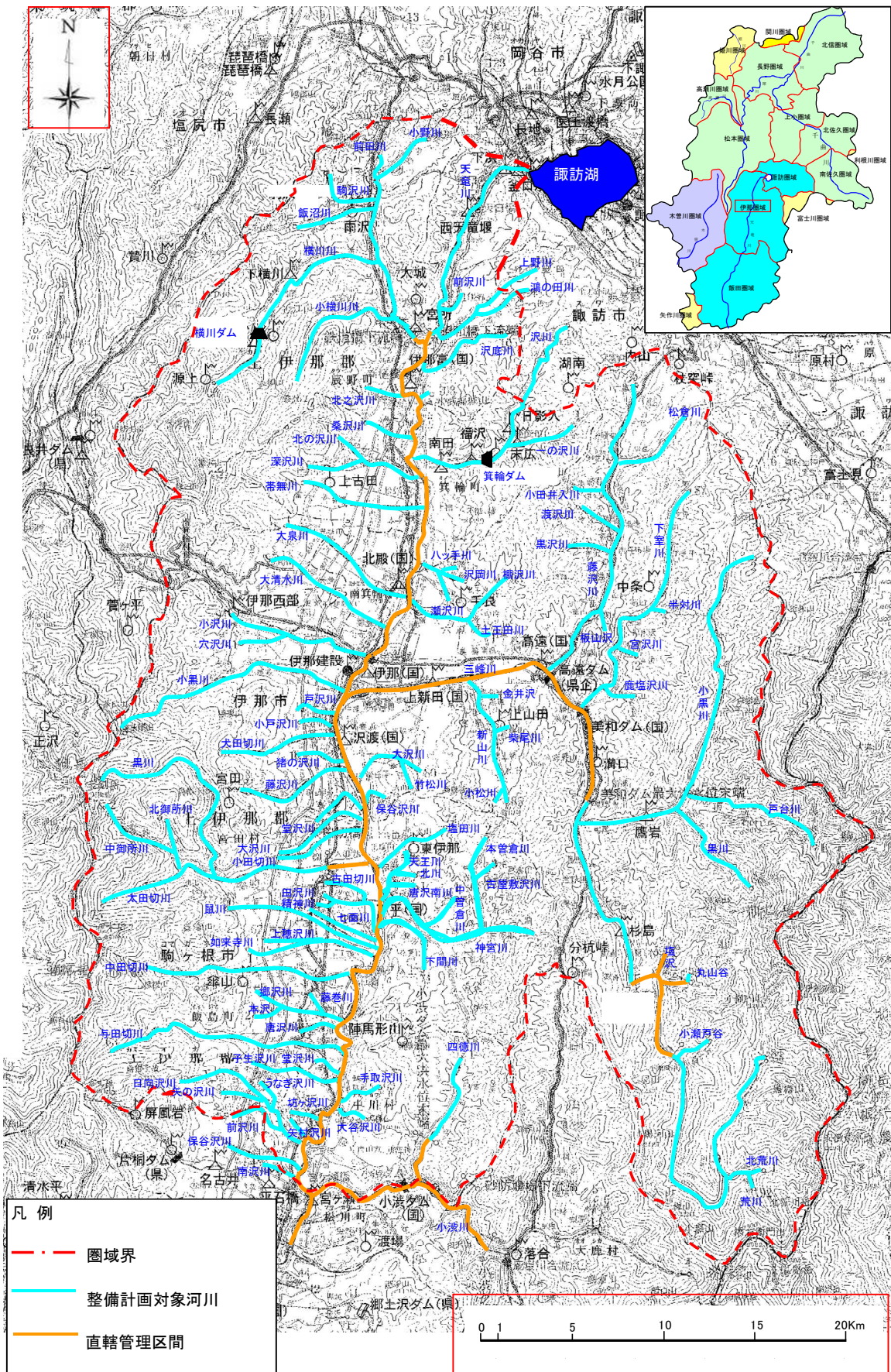


図-8 計画対象圏域図

第2章 河川整備計画の目標に関する事項

伊那圏域の河川整備にあたっては、河川改修、砂防事業の現状、水害発生状況、河川の利用状況、河川環境の保全を考慮し、長野県中期総合計画、第4次長野県水環境保全総合計画、第二次長野県環境基本計画、天竜川水系河川整備基本方針及び国管理区間の天竜川水系河川整備計画等との整合を図り、まちづくりや土地改良事業等と一体となった河川整備を行うものとする。

なお、本整備計画は、流域の社会情勢の変化、自然状況・河川状況の変化、地域の意向等を適切に反映できるよう適宜見直しを行うものとする。

第1節 計画対象区間

本整備計画の対象とする区間は、表-2 伊那圏域の対象区間のとおり、一級河川 102 河川、総延長は約 497km とする。

第2節 計画対象期間

本整備計画の対象期間は、河川整備の実施に関する事項に記載されている河川整備が一連の効果を発現する期間として、概ね 20 年間とする。

ただし、天竜川については、国の整備計画と整合性を図り、下流部の国管理区間と一連の効果を発現する期間として、概ね 30 年間とする。

第3節 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

河川整備計画対象河川のうち、沿川の人口・資産の集積状況、災害の発生状況、現況の流下能力等を考慮すると、洪水による被害が発生した河川、もしくは被害の発生の危険度が高い河川や想定される被害の大きな河川として、天竜川、小沢川、駒沢川が整備の必要な河川に上げられ、その3河川の整備を優先的に行う。

また、整備にあたっては各河川で想定した規模の洪水を安全に流下させることのできる治水安全度を確保することを目標とする。

なお、天竜川本川の整備に影響がある箇所については国と連携・調整を行う。

以下に優先的整備河川の整備目標を記載する。

【天竜川】

沿川の人口や資産の集積状況、災害の発生状況、流域内の土地利用、他河川の改修計画規模とのバランスを考慮するとともに、下流の国管理区間との整合を図り、河積の拡大により釜口水門からの放流量 500m³/s を安全に流下させることのできる治水安全度を確保し、岡谷市川岸地区及び岡谷市湊地区において家屋等への浸水被害を防止することを目標とする。

【小沢川】

沿川の人口や資産の集積状況、災害の発生状況、流域内の土地利用、他河川の改修計画規模とのバランスを考慮して、河積の拡大により 50 年に 1 回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水を安全に流下させることのできる治水安全度を確保し、伊那市街地の荒井地区、川北地区において家屋等への浸水被害を防止することを目標とする。

【駒沢川】

沿川の人口や資産の集積状況、災害の発生状況、流域内の土地利用、他河川の改修計画規模とのバランス及び下流の改修状況を考慮して、河積の拡大等により、30 年に 1 回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水を安全に流下させることのできる治水安全度を確保し、辰野町小野地区において家屋等への浸水被害を防止することを目標とする。

表-2 伊那圏域の対象区間

河川名	区 間		河川延長 (km)
	上 流 端	下 流 端	
天竜川	岡谷市湊一丁目5935番地のへの3地先の釜口水門	上伊那郡辰野町大字平出字平出1697番地の2地先の町道橋	11.500
四徳川	上伊那郡中川村292番ナ号の2の3地先	上伊那郡中川村大字大草字六郷7495番地の1地先 同村同大字字ホソキ7500番の2地先	7.303
南沢川	下伊那郡松川町大字上片桐3634番地先 同町同大字3701番地先	天竜川への合流点	2.110
保谷沢川	豊野川の合流点	天竜川への合流点	3.170
前沢川	上伊那郡飯島町大字七久保字鑄物師原5193番の2地先	天竜川への合流点	7.638
日向沢川	上伊那郡飯島町大字七久保字三林3017番のイ地先	前沢川への合流点	6.308
うなぎ沢川	上伊那郡飯島町大字七久保字下新田542番地先 同町同大字字本畑433番地先	日向沢川への合流点	1.980
矢の沢川	上伊那郡飯島町大字七久保字三林3017番の940内地先の矢の沢2号橋	日向沢川への合流点	2.100
矢村沢川	上伊那郡中川村大字片桐字矢村4351番地先 同村同大字字五十目4350番の2地先	天竜川への合流点	0.600
坊ヶ沢川	上伊那郡中川村大字片桐字西垣外5013番地先 同村同大字坊林5021番の1地先	天竜川への合流点	0.700
大谷沢川	上伊那郡中川村大字大草4444番地先 同村同大字4415番地先	天竜川への合流点	1.600
手取沢川	上伊那郡中川村大字大草2361番の3地先 同村同大字2269番の1地先	天竜川への合流点	3.200
子生沢川	上伊那郡飯島町大字七久保字赤坂3026番の24地先の県道橋	天竜川への合流点	4.700
十堂沢川	上伊那郡飯島町大字本郷字堤久保1974番の11地先の国道橋	天竜川への合流点	1.900
与田切川	上伊那郡飯島町大字七久保字烏帽子岳裏山3015番の1地先 同町同大字字本谷3919番の5地先	天竜川への合流点	14.279
唐沢川	上伊那郡飯島町大字飯島字錠口1426番の3地先の国道橋	天竜川への合流点	2.000
郷沢川	上伊那郡飯島町大字飯島字高尾37018番の4地先 同町同大字字孫太郎3697番の5地先	天竜川への合流点	4.770
藤巻川	上伊那郡飯島町大字田切字太田2925番地先 同町同大字同字2919番地先	郷沢川への合流点	2.000
本沢	上伊那郡飯島町大字飯島字横根山3907番の4地先の林道暗渠下流端	郷沢川への合流点	2.130
中田切川	駒ヶ根市赤穂中田切山21番地先 同市赤穂中田切山18番地先	天竜川への合流点	11.990
上穂沢川	駒ヶ根市赤穂字南田7278番の1地先 同市赤穂字手ぼう7456番の1地先	天竜川への合流点	5.200
如來寺川	駒ヶ根市大字赤穂字三ツ石原14番地先 同市同大字同字15番地先	上穂沢川への合流点	3.100
鼠川	駒ヶ根市中山361番地先 同市同字362番地先	天竜川への合流点	8.175
七面川	陳川の合流点	天竜川への合流点	4.400
田沢川	駒ヶ根市赤穂字芝原田15091番地先 同市赤穂同字15123番地先	天竜川への合流点	4.130
宮沢川	駒ヶ根市赤穂字宮ノ北11349番地先 同市赤穂字宮ノ越11465番地先	田沢川への合流点	1.500
古田切川	駒ヶ根市赤穂字古田切14755番地の2地先 同市同大字字石川114799番の14地先	田沢川への合流点	2.700
精進川	駒ヶ根市赤穂字梨子木15420番の6地先の国道橋	田沢川への合流点	1.380
下間川	駒ヶ根市中沢字高瀬口562番地先 同市中沢字丸久保5618番の2地先	天竜川への合流点	5.000
新宮川	駒ヶ根市中沢7077番の2地先 同市中沢7451番の2地先	天竜川への合流点	9.483
中曾倉川	駒ヶ根市中沢字白ナキ9810番の1地先の市道橋	新宮川への合流点	1.900
大曾倉川	駒ヶ根市中沢字古道9026番の1地先 同市中沢さみ9041番地先	新宮川への合流点	5.300
古屋敷沢川	駒ヶ根市中沢字カジ畑8663番地先 同市中沢権の上8838番地先	大曾倉川への合流点	0.900
天王川	駒ヶ根市東伊那字柏原2999番の1地先 同市東伊那字善之2511番地先	天竜川への合流点	3.100
唐沢川	駒ヶ根市東伊那字勝利垣外1034番地先 同市東伊那字山田535番の1地先	天王川への合流点	1.500
北川	駒ヶ根市東伊那字岩壁2680番の5地先の市道橋	天王川への合流点	1.000
塩田川	駒ヶ根市東伊那字大沢口3931番地先 同市東伊那字戸谷ヶ崎7756番の口地先	天竜川への合流点	4.200
太田切川	上伊那郡宮田村字中御所4749番地先 駒ヶ根市大字赤穂1番地先	上伊那郡宮田村字石原5197番地のイの4地先の太田切橋	12.724
纒川	上伊那郡宮田村字北御所4749番地先	太田切川への合流点	11.990
中御所川	上伊那郡宮田村字中御所4749番地先	太田切川への合流点	5.668
北御所川	上伊那郡宮田村4749番の1地先の上流端を示す標柱	中御所川への合流点	1.900
小田切川	上伊那郡宮田村字駒漬2312番の2地先 同村字二ツ屋1925番の8地先	天竜川への合流点	7.957
大沢川	小田切川からの分派点	天竜川への合流点	5.197
堂沢川	上伊那郡宮田村字オノ神376番の2地先の村道橋	天竜川への合流点	3.590
保谷沢川	伊那市東春近字鈴の入6194番地先 同市同大字字東沢5996番地先	天竜川への合流点	1.030
大沢川	伊那市川富県字東田8026番地の市道橋	天竜川への合流点	9.420
竹松川	伊那市富県字菖蒲平9003番地の市道橋	大沢川への合流点	3.020
藤沢川	伊那市西春近字藤沢4373番の1の6地先 同市西春近同字4747番の3地先	天竜川への合流点	6.104

	区 間		河川延長 (km)
	上 流 端	下 流 端	
いぞわがわ 猪の沢川	伊那市西春近字猪の山4114番の335地先 同市西春近同字4114番の334地先	天竜川への合流点	3.150
いぬたぎりがわ 犬田切川	伊那市西春近字木裏原4107番の4地先 同市大字東春近同字10641番地先	天竜川への合流点	5.109
ことうがわ 小戸沢川	伊那市西春近字細ヶ谷3282番の50地先の市道橋	天竜川への合流点	2.520
こぶがわ 戸沢川	伊那市西春近字中原506番の1地先 同市西春近字銭神原3221番の2地先	小戸沢川への合流点	1.700
みねがわ 三峰川	伊那市長谷浦国有林108林班地先 同市同大字国有林89林班地先	伊那市長谷長尾136番地のイ号の1地先 同市長谷黒河内字黒川端2873番地の2地先	25.420
にいやまがわ 新山川	伊那市富県2132番地先 同市同大字926番地先	三峰川への合流点	5.400
かさいがわ 金井沢	伊那市高遠町上山田428番の1地先の山田取井堰	新山川への合流点	1.000
しばがわ 柴尾川	伊那市富県字寺沢532番の18地先 同市同大字字番場2572番の口地先	新山川への合流点	0.200
こまつがわ 小松川	伊那市富県字大畑1823番の1地先 同市同大字1823番の3地先	新山川への合流点	1.830
ふじさわがわ 藤沢川	伊那市高遠町藤沢6520番地先	三峰川への合流点	13.080
いたやまがわ 坂山沢	伊那市高遠町東高遠1777番地先の町道橋	藤沢川への合流点	0.900
くろがわ 黒沢川	鉢伏沢の合流点	藤沢川への合流点	2.300
わたさわがわ 渡沢川	伊那市高遠町藤沢539番地先の町道橋	藤沢川への合流点	2.800
おたいりぎわ 小田井入沢	菅田沢の合流点	藤沢川への合流点	1.000
まつくらがわ 松倉川	伊那市高遠町藤沢4947番の4地先の町道橋	藤沢川への合流点	4.000
やまむらがわ 山室川	伊那市高遠町芝平377番の1地先 同市同大字1279番地先	三峰川への合流点	14.000
かしおぞわがわ 鹿塩沢川	赤手沢の合流点	山室川への合流点	2.000
みやざわがわ 宮沢川	伊那市高遠町山室1401番のイ地先 同市同大字1466番の3地先	山室川への合流点	2.150
はんずいがわ 半対川	伊那市高遠町山室3659番の1地先の町道橋下流端	山室川への合流点	0.820
くろがわ 黒川	伊那市長谷黒河内国有林287林班地先 同市同大字国有林284林班地先	三峰川への合流点	12.753
とだいがわ 戸台川	伊那市長谷黒河内国有林269林班地先	黒川への合流点	8.066
くろがわ 小黒川	伊那市長谷黒河内国有林221林班地先 同市同大字国有林219林班地先	戸台川への合流点	11.772
まるやまに 丸山谷	伊那市長谷浦字丸山1938番のイ地先	伊那市長谷浦1938番地の161地先 同市長谷浦1938番地の212地先	0.300
こしよとがわ 小瀬戸谷	伊那市長谷浦国有林22林班地先	三峰川への合流点	0.300
あらかがわ 荒川	伊那市長谷浦国有林68林班地先	三峰川への合流点	1.660
きたあらかがわ 北荒川	伊那市長谷浦国有林68林班地先	荒川への合流点	0.150
くろがわ 小黒川	伊那市伊那729番の15地先 同市同大字7055番の1地先	天竜川への合流点	13.407
おまがわ 小沢川	伊那市伊那1001番の96地先 同市同大字1001番の11地先	天竜川への合流点	6.976
あなざわがわ 穴沢川	伊那市伊那穴沢8872番の1地先の市道橋	小沢川への合流点	1.550
おおいみずがわ 大清水川	伊那市西箕輪字古屋敷3180番地先の市道橋	天竜川への合流点	6.900
あなざわがわ 瀬沢川	伊那市手良野口字山ノ神1730番地先の市道橋	天竜川への合流点	6.000
ちちあさたがわ 土王田川	伊那市美篁字土王田1616番地先 同市同大字同字1619番の1地先	瀬沢川への合流点	2.200
おおいみずがわ 大泉川	伊那市西箕輪1479番地先 同市大字南箕輪字仲川原6287番地先	天竜川への合流点	6.649
あなざわがわ 瀬沢川	伊那市手良野岡字南垣外423番の1地先 同市同大字字中垣外484番の4地先	天竜川への合流点	3.200
やつかがわ ハツ手川	伊那市手良野岡字小屋畑1300番地先 同市同大字字カラン田1528番地先	瀬沢川への合流点	0.600
あなざわがわ 沢岡川	伊那市手良野岡字垣外521番の1地先 同市同大字字中村前1156番地先	瀬沢川への合流点	1.450
おひなしがわ 帯無川	上伊那郡箕輪町大字中箕輪字帯無山14616番地先	天竜川への合流点	5.232
あなざわがわ 深沢川	上伊那郡箕輪町大字中箕輪字深沢山御堂7205番の6地先 同町同大字同字7205の5地先	天竜川への合流点	4.849
きたのさわがわ 北の沢川	上伊那郡箕輪町大字中箕輪字民部3735番地先 同町同大字字北の沢5313番地先	深沢川への合流点	1.350
あなざわがわ 沢川	諏訪市大字湖南字ハシカミ8625番のイ地先の市道橋	天竜川への合流点	18.658
いちのさわがわ 一の沢川	上伊那郡箕輪町大字東箕輪字日向入山の内日沢地先	沢川への合流点	5.559
あなざわがわ 桑沢川	上伊那郡辰野町大字伊那富字山越9198番の5地先 同郡箕輪町大字中箕輪字北原2034番の83地先	天竜川への合流点	3.120
ひのさわがわ 樋の沢川	上伊那郡辰野町大字樋口字樋口1110番の1地先 同町同大字同字53番地先	天竜川への合流点	0.700
きたのさわがわ 北の沢川	上伊那郡辰野町伊那富字山口5326番の4地先 同町伊那富字日影6257番地先	天竜川への合流点	3.161
あなざわがわ 沢底川	上伊那郡辰野町大字沢底字青山1258番地先の町道橋	天竜川への合流点	4.856
よこかわがわ 横川川	上伊那郡辰野町大字横川字大洞谷川地先	上伊那郡辰野町大字辰野字下河原1716番地の1地先の鉄道橋下流端	16.279
よこかわがわ 小横川川	上伊那郡辰野町大字伊那富字大持沢2075番地先 同町同大字字アバラ2073番地先	横川川への合流点	8.502
おのさわがわ 小野川	うなぎ平川の合流点	横川川への合流点	9.210
いいぬまがわ 飯沼川	上伊那郡辰野町大字小野字大栗沢4114番地先 同町同大字字曲尾4370番の1地先	小野川への合流点	4.500
こまざわがわ 駒沢川	上伊那郡辰野町大字小野字駒沢5985番の1地先	小野川への合流点	3.900
あなざわがわ 前田川	刈谷沢の合流点	小野川への合流点	1.680
あなざわがわ 上野川	諏訪市大字豊田字下赤坂6215番の1地先	天竜川への合流点	6.965
たがわ 鴻の田川	諏訪市大字豊田字前田通6505番の1地先 同市同大字字道下通6515番地先	上野川への合流点	1.200
あなざわがわ 前沢川	上伊那郡辰野町大字平出字沢入口672番の1地先の上流端を示す標柱	天竜川への合流点	1.100
合 計			497.679

第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

河川敷や堤防天端の利用については、沿川住民や自治体との連携を図りながら適正利用に努める。

横川川においては、渇水時に流水が不足し、河川環境の悪化等が懸念されるために、横川ダムで流水の正常な機能の維持に必要な流量確保を行うこととし、既存水利流量を勘案し、表-3に掲げる地点において、同表に掲げる水量を確保するよう努める。

表-3 横川川の主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量
(単位：m³/s)

地点名	期 間	水 量
ダム地点	1月1日 ~ 4月30日	0.030
	5月1日 ~ 5月10日	0.204
	5月11日 ~ 5月31日	0.247
	6月1日 ~ 9月30日	0.204
	10月1日 ~ 12月31日	0.030
下横川堰	1月1日 ~ 4月30日	0.259
	5月1日 ~ 5月10日	0.489
	5月11日 ~ 5月31日	0.589
	6月1日 ~ 9月30日	0.489
	10月1日 ~ 12月31日	0.259

また、沢川においては、渇水時に流水が不足し、河川環境の悪化等が懸念されるために、箕輪ダムで流水の正常な機能の維持に必要な流量確保を行うこととし、河川の低水流況、既存水利流量の確保、景観、動植物の保護、流水の清潔の保持等を勘案し、表-4に掲げる地点において、同表に掲げる水量を確保するよう努める。

表-4 沢川の主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量
(単位：m³/s)

地点名	期 間	水 量
ダム地点	1月1日 ~ 12月31日	0.110
福沢地点	1月1日 ~ 3月31日	0.341
	4月1日 ~ 4月20日	0.440
	4月21日 ~ 5月10日	0.638
	5月11日 ~ 5月31日	0.723
	6月1日 ~ 6月10日	0.611
	6月11日 ~ 8月31日	0.607
	9月1日 ~ 9月20日	0.552
	9月21日 ~ 9月30日	0.421
	10月1日 ~ 12月31日	0.341

天竜川（釜口水門～横川川合流点）においては、渇水時に流水が不足し、河川環境の悪化が懸念されることから、既存水利流量の確保、景観、動植物の保護、流水の清潔の保持等を勘案し、釜口水門において責任放流量 8.4m³/s を放流し、水量の確保に努める。

また、異常渇水時には関係者と連携し、節水等の広報活動を行うとともに、必要に応じて利水関係者間の利用調整のための情報提供に努める。

他の河川については、各河川の水利用の実態や地元住民の意見を参考に、優先度の高い河川については、取水状況の把握や流況等のデータの蓄積及び動植物の保護、流水の清潔の保持等について必要な調査・検討を行い、正常流量の設定に努める。

第5節 河川環境の整備と保全に関する目標

良好な河川環境や景観の保全に努め、河川改修に当たっては瀬や淵の保全、自然石等を取り入れた護岸等の採用及び動植物への工事に伴う影響を極力減らし、良好な生息、生育環境の保全・復元に努める。

さらに、河川空間の利用がなされている区間を整備する際は、堤内地から河川へのアクセス（連絡路）を確保できるように、階段などの施設を適当な間隔で設置し、人が川により親しむことのできる環境の整備、親水性の確保に努めるものとする。

特に、辰野町は「ホテルの里」であることをまちづくりの基本としており、農業水路や湧水を中心に多数のホテルが生息しているため、流域住民と協力し、ホテルの生息環境の保全に努める。

第3章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに該当河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

本文に記載する河川は、河川整備計画の目標を実現させるための具体的な方策として、計画的な河川整備を行う河川とする。

〔天竜川〕

1 河川工事の目的

釜口水門からの放流量 500m³/s に対し、側方掘削・根固工等により流下能力の確保を図り、岡谷市川岸地区及び岡谷市湊地区において、計画高水位以下の水位で安全に流下させることを目的とする。

2 施行の場所及び整備の内容

(1) 施行の場所

昭^{しょう}和^わ橋^{はし}上流 9.4km から 10.3km までの 0.9km 間及び 10.9km から 11.4km までの 0.5km の約 1.4km の区間

(2) 河川整備の種類

側方掘削、根固工等

(3) 整備の内容

河川工事の実施に当たっては、可能な限り動植物の生息・生育に配慮した改修を基本とし、河川環境の保全に配慮した整備を行う。

特に、側方掘削・根固工等の施工の際には、現況の河床を考慮し、瀬や淵、魚類の遡上・降下に配慮した整備を行う。

また、必要に応じて、河川生物の生息環境を保全し、水に親しむことのできる親水施設の整備を行う。

〔小沢川〕

1 河川工事の目的

50年に1回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水（天竜川合流点で1秒間につき228立方メートル）に対し、護岸工事や河床掘削により流下能力の確保を図り、伊那市街地の荒井地区、川北地区の浸水被害を防止することを目的とする。

2 施行の場所及び整備の内容

(1) 施行の場所

室渡場橋^{しつとばし}上流0.20km地点から0.61km地点までの約0.41kmの区間

(2) 河川整備の種類

河床掘削、護岸工事等

(3) 整備の内容

河川工事の実施に当たっては、可能な限り動植物の生息・生育に配慮した改修を基本とし、河川環境の保全に配慮した整備を行い、河岸の緑化や景観、親水性に配慮した川づくりを行う。

〔駒沢川〕

1 河川工事の目的

30年に1回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水（小野川合流点で1秒間につき52立方メートル）に対し、護岸工事や築堤工事及び橋梁架替により、流下能力の確保を図り、辰野町小野地区において家屋等への浸水被害を防止することを目的とする。

2 施行の場所及び整備の内容

(1) 施行の場所

小野川合流地点から上流約3.76kmの区間

(2) 河川整備の種類

護岸工事、築堤工事、橋梁架替等

(3) 整備の内容

施設等の整備が行われていない上中流区間の護岸整備を優先的に進め、下流区間の築堤工事やそれに伴う国道橋の架け替え等については、関係者と調整のうえ対応する。

河川工事の実施に当たっては、可能な限り動植物の生息・生育に配慮した改修を基本とし、河川環境の保全に配慮した整備を行い、河岸の緑化や景観、親水性に配慮した川づくりを行う。

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

第1項 河川の維持の目的

河川の維持管理は、地域の特性を踏まえつつ、洪水による災害の発生防止、軽減、河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、生物の成育・生息・繁殖環境に配慮した瀬・淵等の保全等、その影響の回避・低減に努め、良好な河川環境の整備と保全がなされるように行うものとする。

河川愛護団体や住民による河川愛護活動を支援することにより、住民参加による河川環境保全を促進する。

第2項 河川の維持の種類及び施行の場所

(1) 河道維持に関する項目

土砂が堆積し洪水の流下の阻害となる等、治水上の支障となる場合は、環境に配慮しつつ堆積土砂の除去、立木伐採、草刈り等の必要な対策を河川愛護団体と協力して行う。

(2) 河川構造物の維持に関する項目

護岸等の河川構造物の変状、異常の早期発見のため、定期的な河川巡視を行うとともに、河川管理上支障をきたす場合は速やかに修繕等必要な対策を行う。

治水上の安全性を保持するために取水堰等の許可工作物でも洪水時の洗掘や河積の阻害等河川管理上の支障となるものは、施設管理者と協議の上適切な処置に努める。また、施設の新築や改築に当たっては施設管理者に対して治水上の影響を考慮の上、環境保全にも配慮するように指導を行う。

横川ダム、箕輪ダムについては、ダム本体、貯水池及びダムに係る施設等を良好に保つために必要な計測・点検等を行い、その機能維持に努める。

(3) 流水の正常な機能の維持に関する項目

圏域内の河川の水量、水質については、関連市町村、利害関係者、河川愛護団体及び漁業関係者等から積極的に情報を収集するとともに、河川パトロールや河川愛護団体等と連携を図り流水の状況の把握に努める。

(4) その他

河川愛護に関する活動を支援し、河川環境改善の意識の向上に努める。河川愛護活動を支援することにより、住民参加による河川環境の保全を促進するものとする。

第4章 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項

第1節 河川情報の提供に関する事項

第1項 減災に資する事項

雨量・水位情報をリアルタイムで収集し、関係機関に提供することにより、水防活動等の必要な対策への支援を迅速に行う。さらに、関係機関と連携し、公表済みの浸水想定区域や避難路等を記載したハザードマップの周知を図り、計画規模や現況流下能力を超える洪水に対し、被害の防止・軽減を図る。

第2項 河川に関する情報提供

パンフレット配布、イベントの開催及びインターネット等により、河川事業の紹介や河川に関する情報の提供を行い、河川事業に関して広く理解を得られるように努める。

第3項 水質事故等への対応

水質事故が発生した際には、事故状況の把握、関係機関への連絡、河川や水質の監視、事故処理等を原因者及び関係機関と協力して行う。

第2節 地域や関係機関との連携等に関する事項

第1項 水防活動への支援等

流下断面の不足や堤防高さの不足等により氾濫が予想される区域においては、連絡系統等を定めた水防計画を樹立し、関係機関と連携し、洪水被害を防止・軽減するための水防活動を支援する。

また、天竜川等に流入する河川の内水氾濫に対しても、関係機関との連携を図り、その被害の軽減に努める。

第2項 開発行為に伴う流出量の低減

流域住民の視点に立った総合的な河川管理を行うため、治水上影響の大きい土地の改変を伴う開発行為に対しては流出量の低減のために関係部局と連携を図る。

第3項 関係機関及び流域住民との連携

- (1) 総合的な土砂管理に関し、関係機関と連携し、情報共有を図る。
- (2) 河川は流域住民の生命・財産を洪水から守る治水施設として役割はもちろんのこと、近年においては、貴重な水と緑の空間として人々にうるおいを与える役割も評価され、地域と河川の密接な関係を取り戻そうとする気運が高まって

いる。

こうした状況を踏まえ、計画、施工から維持管理に至る全ての段階において、流域に居住する住民や市町村等と連携を図り、地域ぐるみによる“川づくり”を目指していく。

特に維持管理に関しては、河川愛護団体と連携した草刈り、ゴミ拾い等を通じ、河川美化活動・河川愛護活動の普及に努めるとともに、既に開始されている「天竜川アダプトプログラム」「棚沢川アダプトプログラム」「七面川アダプトプログラム」を支援・拡充し、地域の住民・企業と新たなパートナーシップの形成を図っていく。

また、河川が環境教育の場として有効に生かされるよう、河川管理者として支援・協力していく。

- (3) 釜口水門は諏訪湖からの唯一の放流箇所であり、過去から段階的に放流量を増加させているものの、洪水時には諏訪湖周辺や流入河川の沿川で浸水被害が繰り返し発生している。こうした被害の軽減に向け、本川下流の改修状況とバランスを図りながら放流量については、関係機関と連携しながら検討していく。

天竜川水系伊那圏域河川整備計画(附図)

○天竜川

整備区間図	・・・・・・・・・・・・・・・・	附図－ 1
縦断図	・・・・・・・・・・・・・・・・	附図－ 2
流量配分図・標準横断図	・・・・・・・・・・・・・・・・	附図－ 3

○小沢川

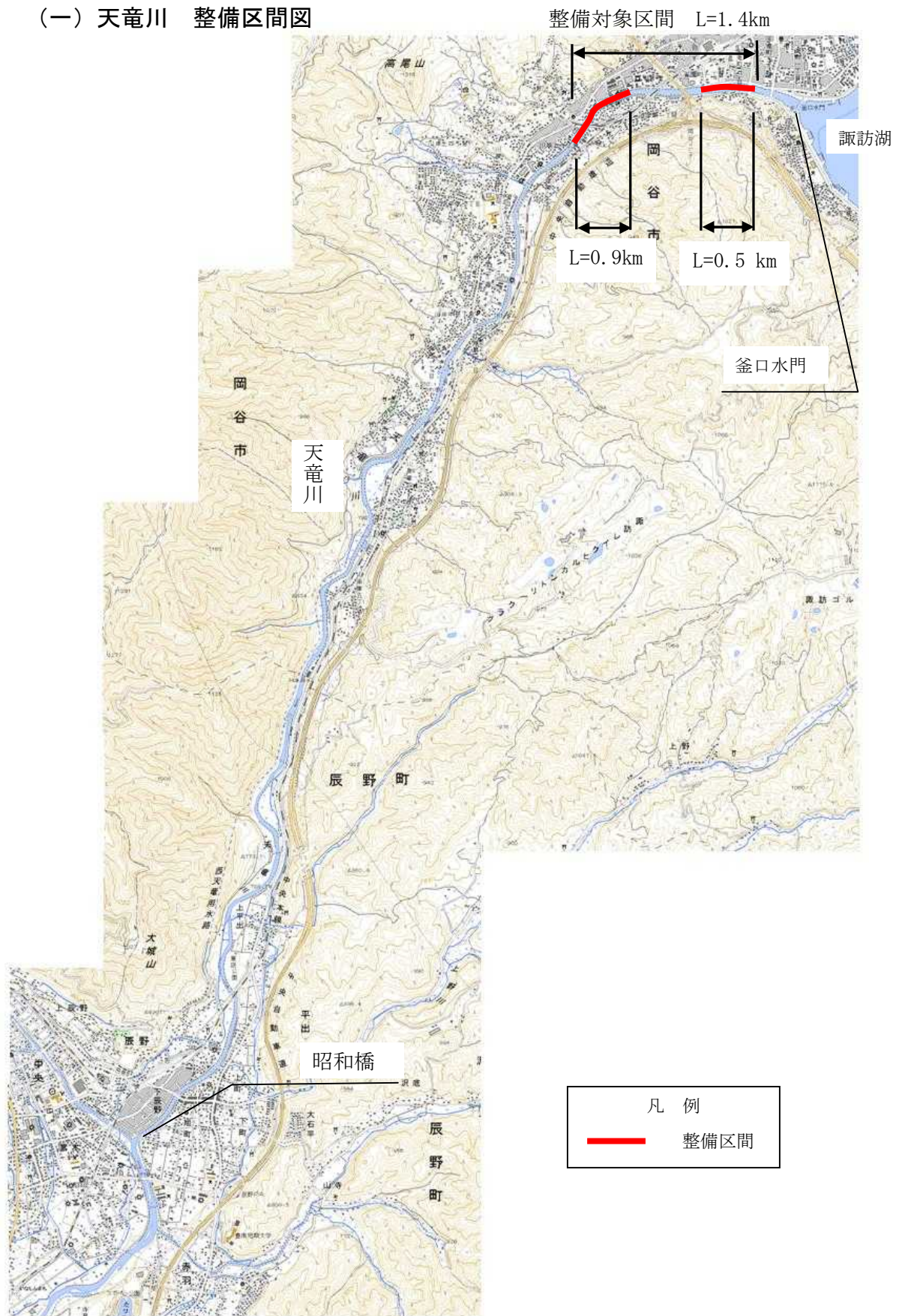
整備区間図	・・・・・・・・・・・・・・・・	附図－ 4
縦断図	・・・・・・・・・・・・・・・・	附図－ 5
流量配分図・標準横断図	・・・・・・・・・・・・・・・・	附図－ 6

○駒沢川

整備区間図	・・・・・・・・・・・・・・・・	附図－ 7
縦断図	・・・・・・・・・・・・・・・・	附図－ 8
流量配分図・標準横断図	・・・・・・・・・・・・・・・・	附図－ 9

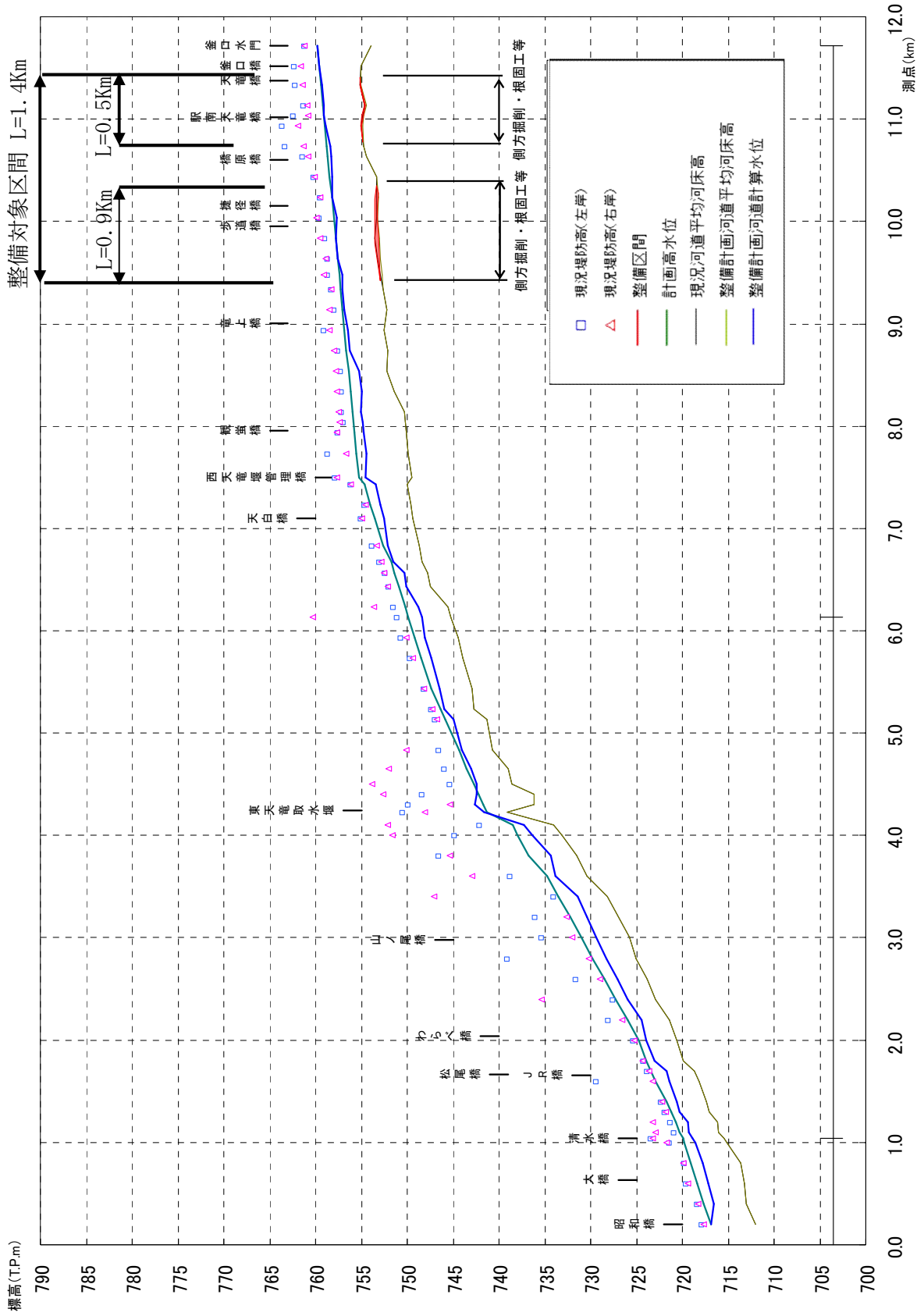
※本附図の詳細な位置や構造等については、今後の詳細設計等により変更することがあります。

(一) 天竜川 整備区間図



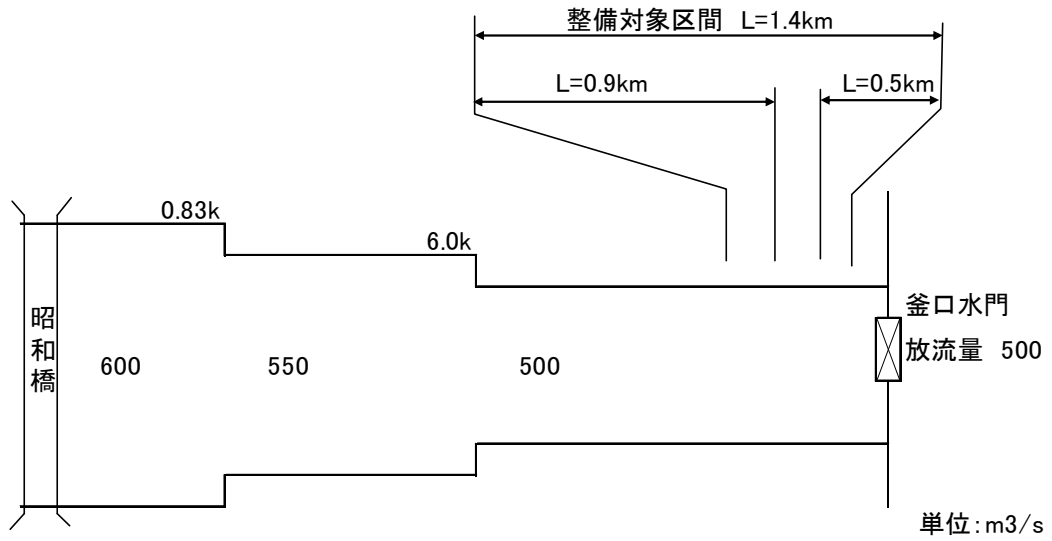
附図-1

(一) 天竜川 縦断面図

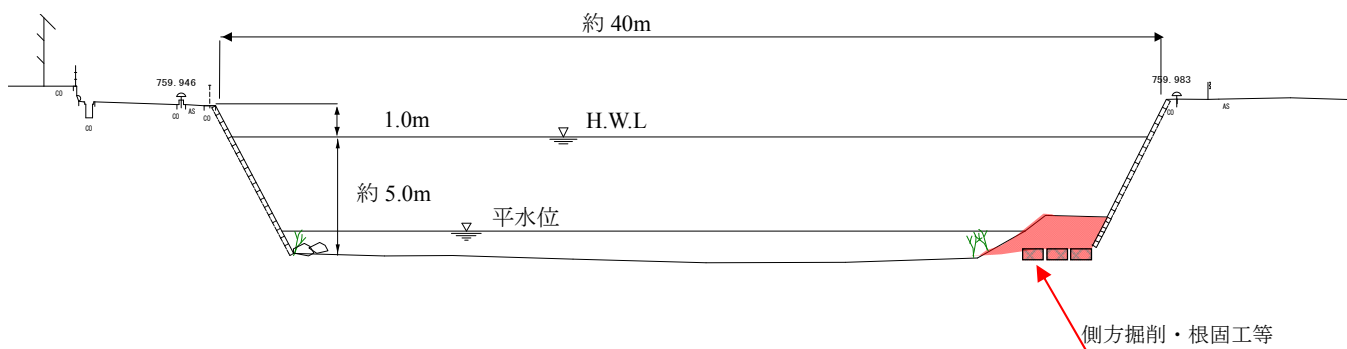


附图-2

(一) 天竜川 流量配分図



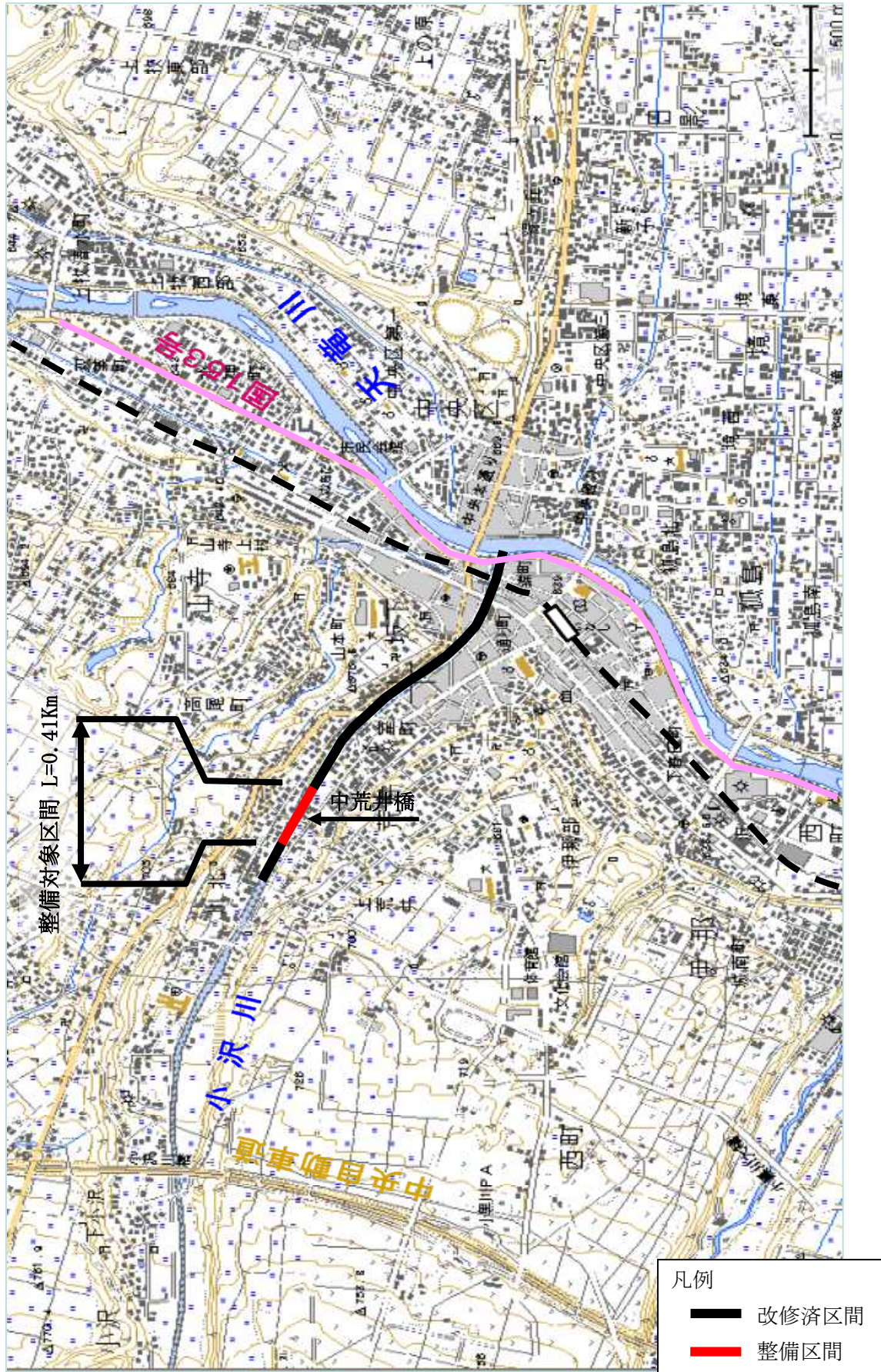
(一) 天竜川 標準横断面図



(イメージ図)

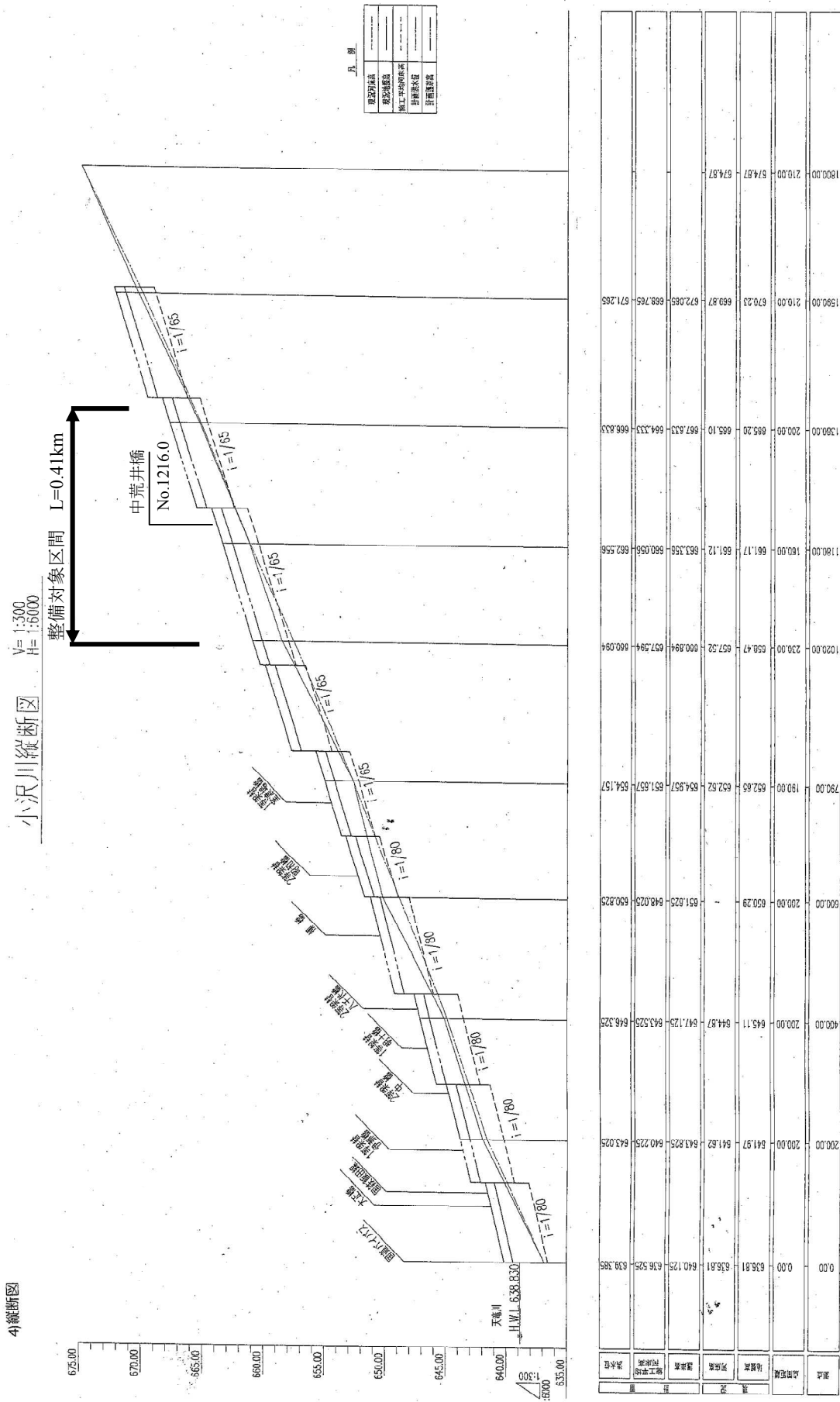
○側方掘削・根固工等の施工の際には、現況の河床を考慮し、瀬や淵、魚類の遡上・降下に配慮した整備を行う。

(一) 小沢川 整備区間図



附図－4

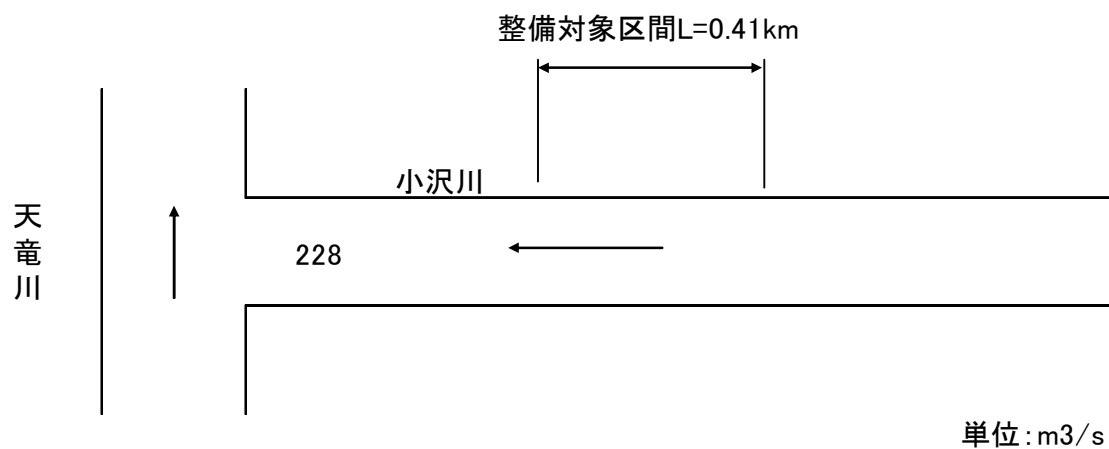
(一) 小沢川 縦断面図



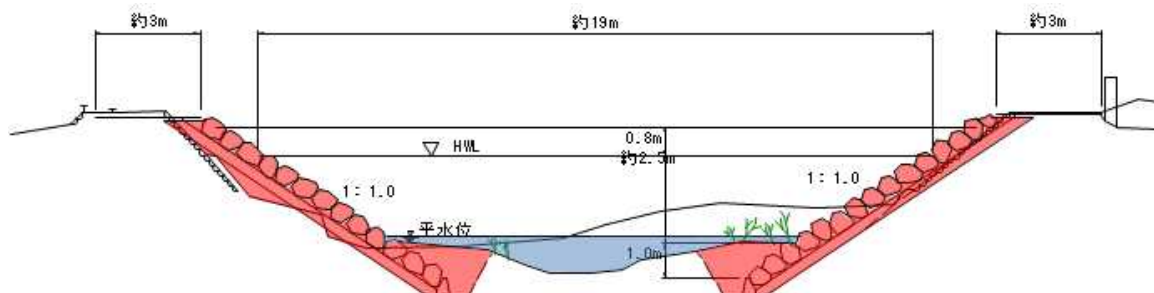
凡一明

河床高	
橋脚底高	
橋脚頂高	
橋脚底高	
橋脚頂高	

(一) 小沢川 流量配分図



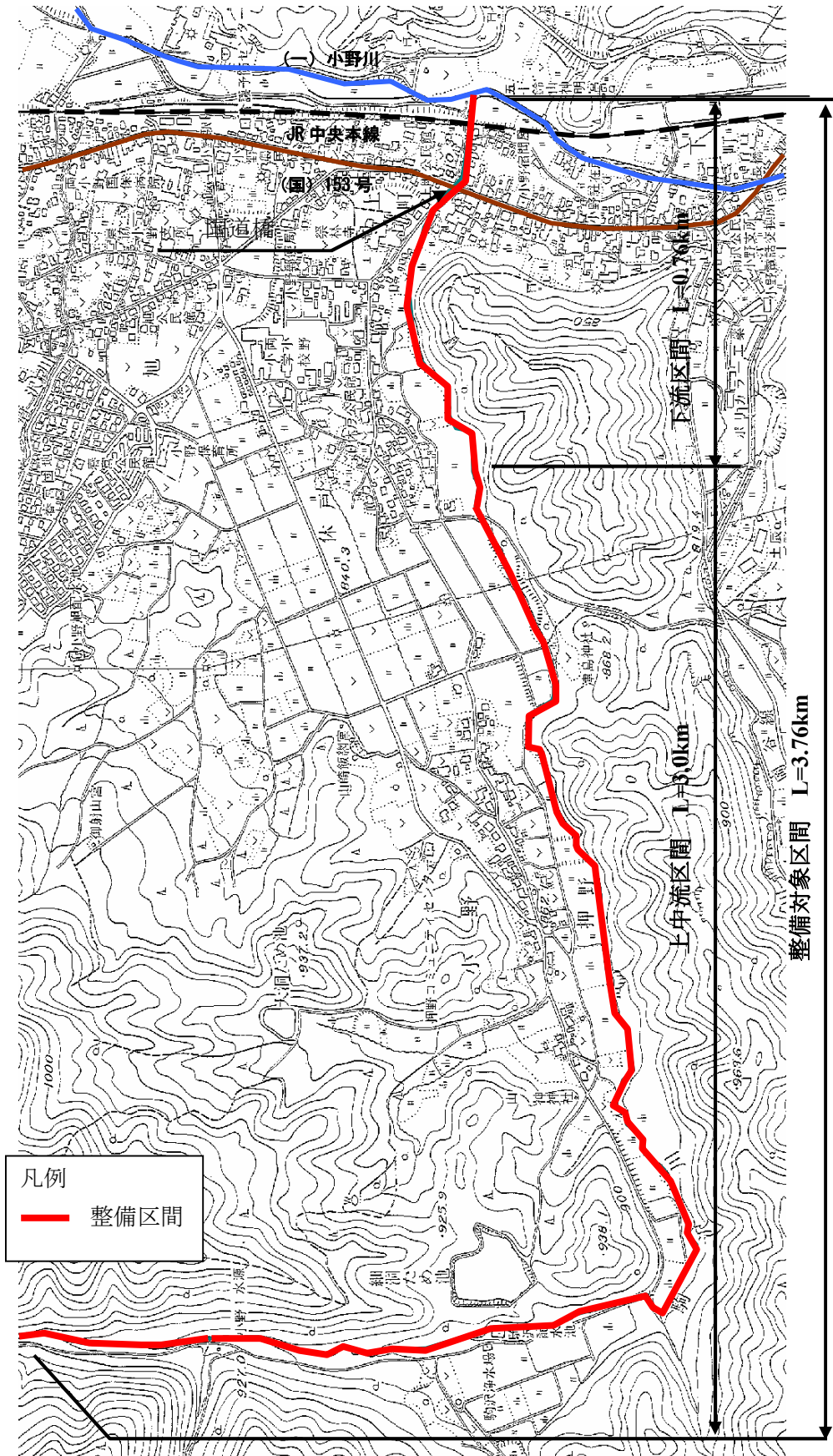
(一) 小沢川 標準横断面図



(イメージ図)

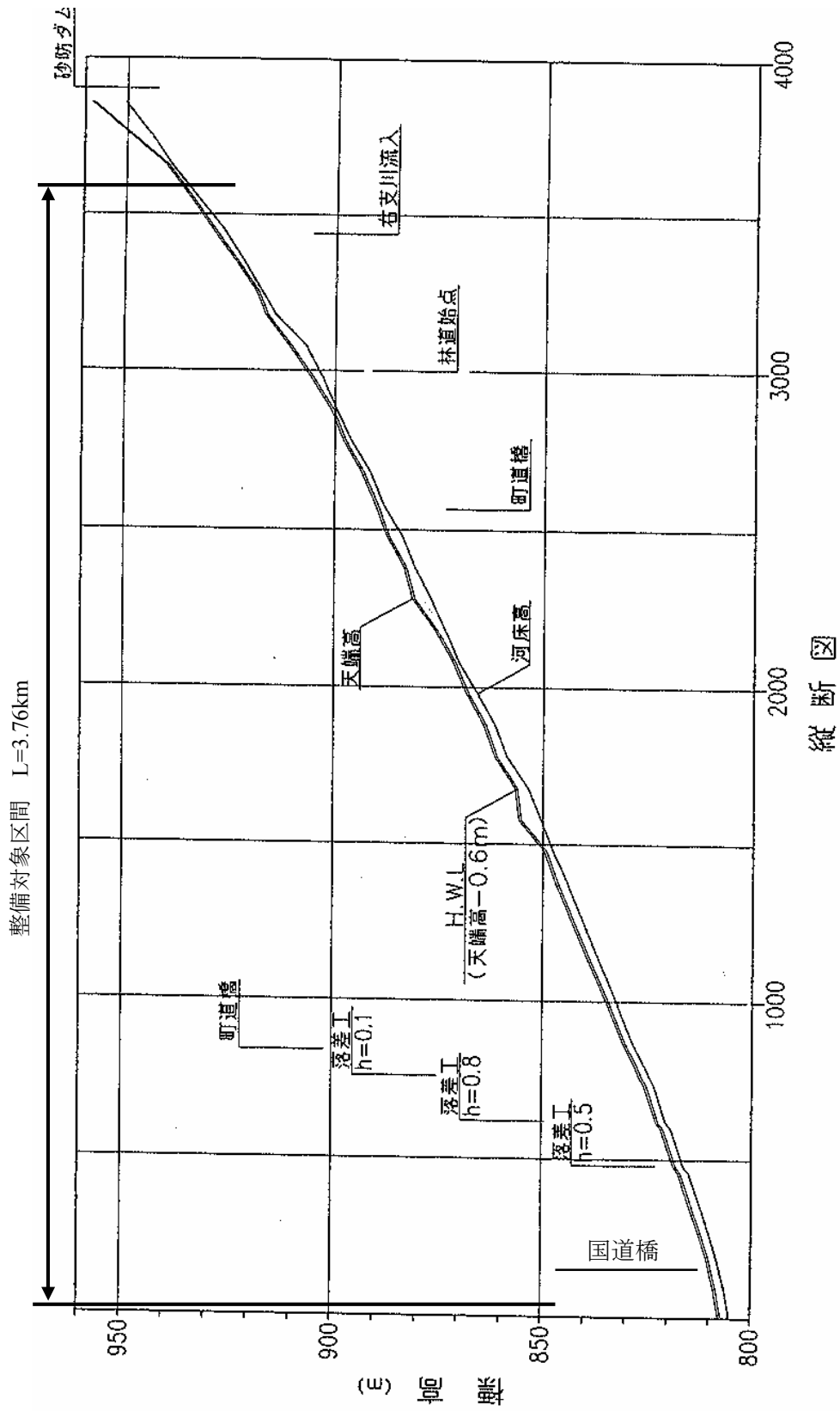
○河川環境の保全に努め、河岸の緑化や景観、親水性に配慮する。

(一) 駒沢川 整備区間図



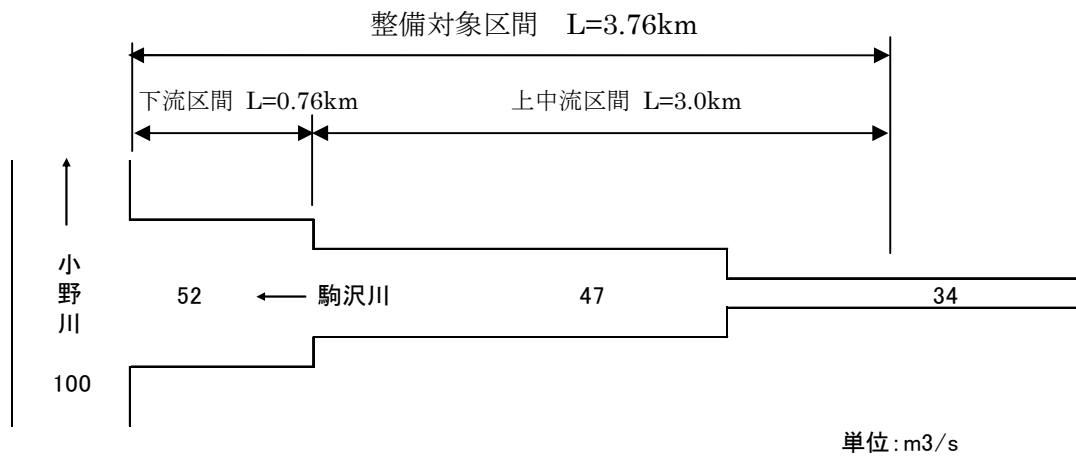
附図-7

(一) 駒沢川 縦断面図

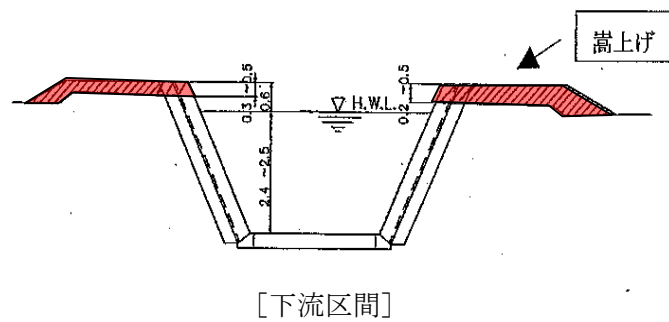
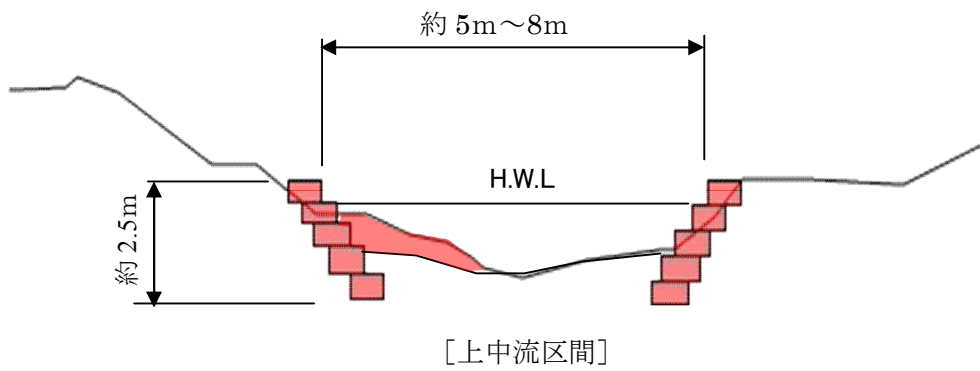


附图-8

(一) 駒沢川 流量配分図



(一) 駒沢川 標準横断面図



(イメージ図)

○河川環境の保全に努め、河岸の緑化や景観、親水性に配慮する。